

令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実際に、学習したセンテンスを使い話す活動を多く取り入れたことで、表現の定着が見られた。
- ・英語を使ったゲームや会話練習の時間を取り入れ、英語に慣れ親しむ態度を育てたり、英単語の定着を図ったりした。

(2) 課題

- ・書く活動に対して、抵抗感をもっている児童が多く、短い文章や選んで、入れるだけの問題でも回答を避ける傾向にある。
- ・基礎や基本的な表現等は身につけているが、既習事項を別单元などで活用することに対しては苦手意識を抱えている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6学年	平均正答率は、目標値を上回り、区や全国の平均正答率と比べても高い。しかしカテゴリー別にみると、活用と記述の部分では区の平均をやや下回る結果となった。	平均正答率は、目標値を上回ったが、区や全国と比べると低い傾向にある。	全体の平均正答率は、目標値を上回った。

(2) 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現
区内、全国の平均正答率を大きく上回り、知識・技能の定着が認められたと言える。	区内、全国の平均正答率を上回った。しかし、単語を書き写すことも含め、英語で文章を書くこと（英作文）に抵抗感があるようである。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業でよく扱われる英単語や表現については定着が見られるので継続する。大文字小文字の判別などアルファベットも必要に応じて扱う。 ・言語活動を通して、決まった言い方の丸暗記ではなく、意味のある文脈の中で使う機会を増やし必然性のある場面を設定し表現を身に付けていく。 ・記述については、表現や英語の文構造がきちんと身に付いていないため、音をしっかりと耳から繰り返し入れ、センテンスを身に付けさせる。	・全学年、全時間を言語活動中心の授業を行い、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動を取り入れることで、思考・判断・表現力の活用だけではなく、知識及び技能の活用にもつなげていく。 ・記述については、自己表現を行う創造的な活動を行い、書くことに慣れていく。目的、場面、状況を設定し必然性ある活動を設定する。また、相手意識のある活動ができるようにする。	・英語話者の実態に即したコミュニケーションを行い、児童が「英語が通じた」「自分のことを知ってもらえた」と自己存在感を高めたり、伝え合う喜びを感じたりすることができるようにする。 ・英語を使ったゲームや活動を多く取り入れ、英語に慣れ親しむ態度を育てる。 ・異文化理解や児童が興味のあることを題材とし、英語を話すことへの興味や必要感をもてるようにする。